

乍恐口上之覺

一 大谷九右衛門忤政太郎当年江戸へ罷越申
年数ニ相当り申候、然共未若年ニ御座候ニ付
私儀政太郎為名代与御目見ニ江戸へ
可被遣之由兎角者奉畏候、併政太郎
勝手去々年よりひしとつふれ、其上他借
銀御座候、尤九右衛門所持仕候借宅畠諸道
具御存被遊候通売払申仕合ニ御座候へハ
去々年より一家者私手前へ引請養育
申候、忤成仁仕候迄者何とそ介抱仕遣シ
九右衛門名跡相続仕らせ申度、諸事
肝煎遣シ申候、然所ニ兩年竹嶋不慮之
儀ニ付大分之損失仕、其外私手前ニ而茂
近年諸事大分之損仕、両家共不
勝手ニ罷成、彼はひしとつふれ難儀仕候
御威光を以江戸へ罷下り申候段難有者
奉存候得共右申上通り之勝手むきニ御座候
得者何共江戸相勤可申心当無御座迷
惑仕居申候、近比恐多申上事ニ御座候得共
何とそ御銀四貫五百目拝借被為
仰付被下候ハ、難有可奉存候、御銀返上之
儀ハ年々ニ御取被為遊被下候様ニ是又
乍恐奉願候、右之趣御次而之刻
御公儀様江被為仰上可被下候奉願上候、已上

元禄六年

八月十八日

大谷藤兵衛

山内清右衛門様

安見喜兵衛様